

本資料には、個別工事費などの機微な情報が含まれているため、一部情報については、マスキング処理をしております。

# 「中部関西間連系線に係る広域系統整備計画」における 北部変電所短地絡容量対策工事について (事務局確認)

2025年 2月 28日  
広域系統整備委員会  
計画評価及び検証小委員会

工事費の確認結果

工期の確認結果

工事費・工期における将来の変動リスク

まとめ

- 北部変電所短地絡容量対策工事の工事費について、具体的な内容を確認した。
- 整備計画策定後に実施した詳細検討からCT取替を取り止めることが可能であることが判明し、適用することで █████ 円のコスト低減が可能な見込みとなっていた。

項目		発注方式					
		甲乙セクション ABブスタイ	変圧器 2B1次	岐阜連絡線	東部連絡線	西部連絡線	その他 (変圧器一次関係)
主要設備	遮断器				極間コンデンサ取替： 一般競争（※1）		
	気中設備	カセット交換： 一般競争（※1）					機器取替： 一般競争
主要設備以外	CT	取替 取り止め	取替 取り止め				
	接地線	指名競争					
	LA						機器取替： 指名競争
	銘板			随意	随意	随意	随意

※1 …一般競争（公募）の枠組みの中で、工事実施内容を改造または新規購入（どちらも可）と記載し、最安価を選択する予定。

- 中部関西間連系線は、整備計画において2030年6月の運開予定としている。
- 北部変電所短地絡容量対策工事は、2029年12月の運開予定であり、現時点において、工事完了見込みに変更はないことを確認した。
- 北部変電所は既設の変電所であり、停止をとりながらの工事となるため、工事期間が長くなる。そのため、他の工事件名と比較して着工時期が早くなっている。

※2025.2現在

第45回コスト等検証小委員会  
(24/12/3) 資料3

件名	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	
北部変電所短地絡容量対策	▼着手 設計	▼着工	工事				▼2029年12月 完工	

事務局確認

※ 鉄構改造は電気工事（GCS改造等）と同調して実施

項目		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
設計・発注 ・製作	電気設計		鉄構強度設計等					
	土木設計		基礎設計					
	資材発注 ・製作							
施工	電気工事			GCS改造	GCS改造	LS取替	GCS改造	▼12月完工 LA取替
	土木工事		基礎工事					

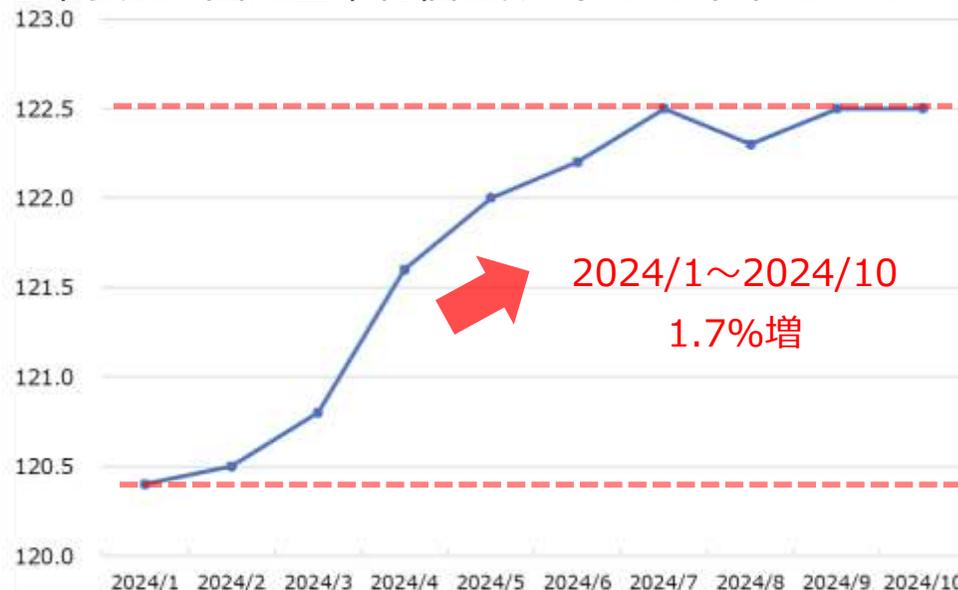
- 工事費について、現時点において、中部PGが算定した物価変動や詳細設計の進展による増額リスクにおける想定影響額の根拠を確認した。
- 工期について、悪天候等による流動的な変動リスクを含め、遅延リスクはないとのことだった。

	リスク項目	発現可能性	想定影響額	影響軽減方策など (回避・損失防止、損失削減、分離/分散)
工事費	資材価格の変動	高		現時点において、物価が大きく下落する可能性は低い。
工期	無し	-	-	-

工事費算出時点の2024年1月から工業製品の物価指数が約2%高騰しており、メーカーの材料手配（～2028年度）までの4年間で約8%の高騰が想定され、  
 資材代： ██████████ と  
 なる可能性があるとして試算した。

(資材代費用全体から、CT取替費用及び銘板取替を除いて想定影響額を試算。)

工業製品の国内企業物価指数 (2020年平均=100%)

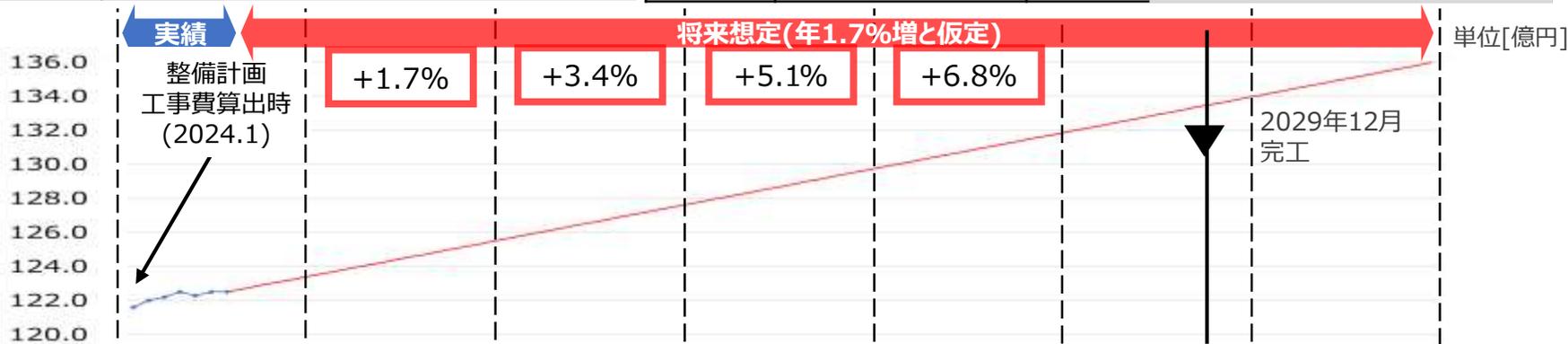


「日本銀行時系列統計データ検索サイト(2024年11月時点)」を参照

# 主要設備の契約時期と物価変動想定（資材の契約時期を考慮）

- 工業製品が中部PGの想定通りに1.7%/年で上昇する場合、主要設備ごと契約時期を考慮すると整備計画時点の工事費から約            円になると試算することができる。
- 将来の物価変動は想定が困難であることから、今後も四半期報告等で物価変動の状況を確認していく。

項目		整備計画 (2024.1)	契約 想定額	想定 影響額	項目		整備計画 (2024.1)	契約 想定額	想定 影響額
遮断器	① Aブスタイ	部品改造			気中設備	⑥ 2,3,4B一次L A	本体取替		
	② Bブスタイ					⑦ 2B一次 甲L S			
	③ 甲セクション				その他	⑧ 鉄構	部材補強		
	④ 乙セクション					⑨ 架線,ALP関係			
	⑤ 東部障線					⑩ 制御ケーブル			



	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度
遮断器							
気中設備							
その他							





## 1. 工事内容（工事費）について

- 詳細設計で判明したCT取替取り止めにより、コスト低減が図られていることを確認した。

## 2. 工事内容（工期）について

- 2030年6月の運開予定に間に合うように、2029年12月までに工事完了の見込みであることを確認した。

## 3. 今後に向けて

- 中部関西間連系線に係る広域系統整備計画のうち、北部変電所短地絡容量対策工事については、今回の検証結果を踏まえ、中部PGからの提案のとおり進めることかどうか。

その上で、

- 中部PGにおいては、更なるコスト低減について検討を継続するとともに、その他工事についてもコスト低減に向けた取組を進めること。
- なお、今後の情勢変化により、想定し得なかった工事費増額や工程遅延のリスクが発現した段階で、早期に広域機関に報告すること。広域機関としても中部PGと綿密に連携しながら対応を検討していくこととする。